

# 議会報告

## さとう仁一議員の議会活動を報告します。

九月定例議会(九月十一日～十月六日)は、決算議会と称され、前年度(平成二十五年)の決算認定について、特別委員会を設置して審査を致します。審査の結果、認定されました。また、十二月定例議会(十一月十一日～十二月二日)は、平成二十七年四月に施行される「大崎子ども・子育て」をはじめ四四議案が提出されました。さとう仁一議員は、「中山平しんとろの湯指定管理者」議案に反対しました。その理由は、地区民の方々や会社から、池月の道の駅や三本木の道の駅と同様に一〇年間のスパンで指定管理を要望されているにも拘らず、五年間で提案しているため反対しました。しかし、賛成者多数で願いはかないませんでした。

さとう仁一議員は市長はじめ執行部との質疑は以下の項目について行いました。

### 九月議会での質問項目

●合併新市計画の一体性事業の進捗状況を問う

●オニコウベスキー場運営管理費の定量・定性評価を問う

●徴収誘因と徴税力の効率性を問う

●四病院一診療所の運営対応を問う

●その他六項目について質疑を展開しました。



### 十二月議会での質問項目

●大崎市誕生十年を迎える平成二十七年の市政運営指針を問う

① 地方分権後の地方自治運営と大崎市政の指針について

② 市民協働推進における行政体内部の成熟度について

③ 副市長・総合支所長ポストの止揚について

●がん対策推進における罹患者支援の充実策を問う

① 療養生活の質的向上のための「がんサロンの充実について

② 社会復帰に向けた医療用ウイッグ(かつら)などの購入支援について

●私学振興における幼児施策の充実と拡充を問う

① 子ども・子育て新制度移行に伴う質的改善への指導について

② 私立幼稚園の経常的経費への大崎市独自の支援拡充について

●米価暴落の今、市長公約「産業維新」の戦略を問う

① 持続可能な米作地域形成への新規需要米倉庫やライスセンターの拡充について

② 「生物多様性おおさき戦略」の樹立について

●民生常任委員会や政務調査費での活動

視察調査は、この八ヶ月で七自治体・二民間事業者(那須塩原市・南砺市・飛騨高山市・大津市・京都市など)に精力的に行うとともに、鹿島台分院問題や米価下落問題や保育所・知的障害者の授産施設・建設中の老健施設(古川・岩出山)で学ぶことが出来ました。今後の市民皆様の質的な生活向上と大崎市の活性化に役立てます。

### 後援会会長挨拶

皆さま、新年明けましておめでとございませう。穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さとう仁一議員は、皆様のお支えにより、精力的な議員活動を行っております。昨秋の米価下落の影響は、地域農業だけでなく地域経済の危機に直結することを心配して、大崎市議会同志に呼び掛け「地域経済の危機・県北の集い」を企画しました。

基調講演には、さとう仁一議員の友人である山形大学元副学長の柴田洋雄名誉教授が登壇して、「地域資源である農林業の元気が、巡回型地域経済の活力」と訴えられました。

本年も、皆様の知恵と愛で「さとう仁一」に活力を与えて頂きますようお願い致します。

さとう仁一連合後援会会長 遠澤啓子

大崎市議会議員 さとう仁一

### 後援会会長挨拶

輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃のご指導に心より感謝申し上げます。

昨年の世相を表す一文字は「税」でありましたね。

税に係わる立場にある者として、無駄使いや政策評価、さらには、市民満足度指数など市民皆様の声に耳を傾け、努力を重ねてまいります。

皆様のご健康を心より念じております。

さとう仁一連合後援会会長 遠澤啓子

大崎市議会議員 さとう仁一



乳がん 体験者の会

## 『Rin(りん)の会』

「ひとりじゃないよ！仲間がいるよ！」をキャッチコピーに、



平成16年10月23日に発足し、毎月1回定例会を開催して会員の情報交換、勉強会、リフレッシュ集い等を会員同士で企画して活動している団体です。新大崎市民病院の開院に併せ、本院内「がんサロン」にて週2回の体験者のおしゃべりサロンをボランティアで開催。またいろんな資料や試用ウイッグなど揃っています。サロンの利用は、がん罹患者に関係なく、どなたでも利用できます。

会員60名の先頭に立つ高橋修子代表は、大変明るく先進的な考えのもと、医療者と会員を結び付ける幅広い活動を展開しています。

宮城県がん対策推進計画策定推進会議委員を務めています。

連絡窓口/大崎市民病院相談支援室  
☎0229-23-3311

詳しくは

大崎市民病院 りんりんの会 検索

